【 63 】

氏名	北 村 吉 宏
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博 甲 第 1287 号
学位授与の日付	平成6年3月31日
学位授与の要件	医学研究科生理系脳代謝医学（神経化学）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	**パーキンソン病における局所脳血流量の定量的検討** **—特に臨床病期分類および精神症状との関連について—**
論文審査委員	教授　庄盛　敏廉　　教授　大本　堯史　　教授　大田原俊輔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

パーキンソン病における局所脳血流量と臨床病期分類，精神症状との関連を検討するため，パーキンソン病の患者63名（男性29名，女性34名）に，N-isopropyl-p-^{123}I-iodoamphetamine（^{123}I-IMP）を核種としたSPECTを実施した。患者のHoehn＆Yahrの臨床期分類は，stageII 28例，stageIII 27例，stageIV 8例であった。また検査実施時に痴呆，せん妄，幻覚，妄想など何らかの精神症状を認めたものは14例であった。方法はmicrosphere modelを用いた動脈採血法によるrCBF定量法に準拠した。その結果YahrIV群のrCBFはYahrII群に比較し，前頭葉，側頭葉，頭頂葉，後頭葉，視床，小脳において有意に低下していた。精神症状が認められた群は認められない群よりも全部位において，有意に低いrCBFを示した。今回の我々の検討ではHoehn＆Yahrの臨床期分類の進行に伴い多くの脳部位で血流低下を伴い，また痴呆，その他の精神症状もやはり全体的な血流の低下が強く関与していると思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，神経変性疾患の一つパーキンソン病の局所脳血流量について，動脈採血法によって定量的に研究したものであるが，従来ほとんど指摘されていなかった病期の進行や精神症状の存在による脳血流低下という，この疾患の病態生理学について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。